

「バリアフリー推進チーム」 提言書

2003 - 1 - 30

山形市「バリアフリー推進チーム」

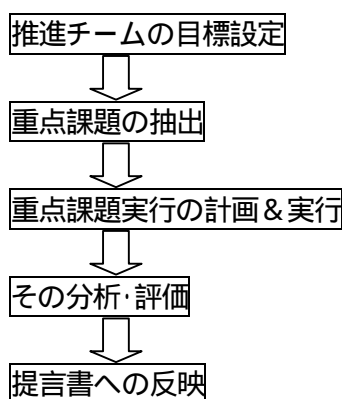
山形市「バリアフリー推進チーム」提言書目次

提言書サマリー(要旨)

1. はじめに(推進チーム発足&提言書作成主旨)
2. 活動チームメンバーリスト&任命書
3. 経過&打ち合わせメモ
4. 推進チーム活動(ワークショップ)の成果物
 - (1)キックオフミーティング
 - (2)車座ミーティング&目標展開検討報告書
 - (3)活動計画書&作業工程表
 - (4)活動実施要領&活動報告
 - (a)山形市のバリアフリー化施策&経緯
 - (b)シルバーゾーン調査
 - (c)秋田県鷹巣町先進事例研究<福祉塾>参加:2泊3日
 - (d)仙台市先進事例研究
 - (e)山形市啓蒙事業連携・参加(100円循環バス試乗調査、その他)
 - (f)バリアフリー施設ガイドマップ(H.12山形県作成)の山形市現状再調査、データ更新
&PCデータ化
 - (g)市職員向けアンケート調査
 - (h)その他
5. 提言(山形市バリアフリー化推進に向けて)
 - (1)バリアーとは...(バリアーの定義の試み)
 - (2)バリアフリー社会の有るべき方向性
 - (3)山形市のバリアフリー化の現状(シルバーゾーン市内調査結果から)
 - (4)バリアフリー化推進のためのビジョン&コンセプト
 - (5)当面実施すべき重点検討項目
 - (6)来年度予定の実施計画書構築のための方法論、体制&要領など

提言書サマリー(要旨)

山形市の「バリアフリー街づくり」の実行計画書策定(H.15年度実施予定)に照準を合わせて<「バリアフリー街づくり」の有るべき姿、その実現のための課題、方法など>を検討し、提言書の構築を目的にした『バリアフリー推進チーム』が山形市より任命を受けて結成されました。このチームは半数の身障者と高齢者並びに課題解決協働者によって構成され、市からの依頼主旨に沿い提言書構築方法の検討から纏めまでを協働ワークショップを通じて実施しました。提言書は現在社会で求められている「**構築プロセス(過程)**」が見える(アカウントビリティ<透明性・説明性>の確保)ように、次のステップを考慮して纏められました。



〈提言要旨〉

活動の重要な位置付けとした車座ミーティング(ブレインストーミング)、目標展開作業、それから展開策定したアクションプランを基に諸活動を実施し、その結果から次のような提言として取り纏めました。

1. バリアーの定義の試みを実施し次の<六つのバリアー>を設定しました。
<物理的なバリア> <制度的なバリア> <情動的なバリア> <意識的なバリア> <経済的なバリア> <文化的なバリア>
2. これらのバリアーの存在する社会がこれからどの様な方向に向かうべきか設定しました。
3. 山形市の施設から選定した<シルバーゾーン>の現状調結果から市の諸施設のバリアフリー化レベルの把握とその分析・評価・提案し、また、100円バス試乗調査も実施して提言内容に盛り込みました。
4. 更に次のような県先進事例の調査を実施し提言内容に反映させました。
秋田県鷹巣町<福祉塾>参加:2泊3日
仙台市諸施設
5. バリアフリー化推進のためのビジョン&コンセプトを策定しました。

6. 山形市バリアフリー施設ガイドマップ内容の更新をアンケート調査に基づき実施(PCデータ化)し来年度のデータ活用の方向付けを提案しております。
7. 市職員向けアンケート調査のための準備(依頼書、アンケート内容の起案)をしました。
8. 来年度実施予定の実施計画書構築のための方法論、体制&要領について提言しました。
9. 山形市の「バリアフリー街づくり」のための実行計画書策定に反映すべき次の5つの重点検討指針を提言します。
 - (1)バリアーの定義付けにより『バリアフリー化の視点は[生活様式]と[設備様式]の両立が基本』というバリアフリー化の基本アプローチを確立し、『障害者も街の生活・営みに溶け込んで、さりげない当たり前のシーン=環境(風景)が日常になる環境づくり』を組み入れた[バリアフリー化社会の有るべき姿(方向性)を設定]する。
 - (2)バリアフリー化の評価基準も考慮したバリアフリー化現状調査とその事例整理を実施し、生じている課題・問題の解決方策の方向性を立案する。
 - (3)これからの街づくりへの障害者・高齢者への参画のあり方を含めた『バリアフリー化方策の基本的方針』を纏め、[バリアフリー化推進体制&方策の検討及び立案]を目指す。
 - (4)『各種調査データの活用を図って[バリアフリー化推進事例集]を作成し、また、『福祉行政の刷新や行政での福祉サービスの実践へ高齢者や障害者の活用』などを行政内部へ発信して[職員の意識醸成・変革]に活かしてもらえるように、バリアフリー化推進のための情報受発信仕組み改善の提案を行う。
 - (5)『障害者の社会参画を進めるため『障害者の肩を押す人・仕組み・施策』を作り、『車椅子などでの100円バス試乗体験会や主要バス停などでの高齢者ボランティアによるバス案内・介助』などの参画事例実践など『市民のバリアフリー意識のレベルアップを図る行動を検討&実行』して[健常者及び障害者・高齢者の意識を変える]。

以上

1. はじめに(推進チーム発足&提言書作成主旨)

山形市生活福祉課鞠子係長殿から今回の事業の背景、経緯について次の様に説明があった。

(1) 国庫補助事業の一環で14年度&15年度にてバリアフリー街づくりを進めることになった。

14年度は「バリアフリー推進チーム」による(バリアフリー街づくり)の有るべき姿の提案

15年度はこの提案をベースに(バリアフリー街づくり)の実行計画書づくり

(2) 「バリアフリー推進チーム」の役割(鞠子係長殿から)

<バリアフリー街づくり>の観点に立ち何をしたら良いかなど、推進の切り口(方法)、課題のピックアップから自由な発想で実施し提案してもらいたい。

参考として一例を挙げると、

* 小白川にある福祉文化センター周囲のシルバーゾーンの調査・検討・提案(約2km領域)

* このような調査・検討・提案の要素はハードだけでなく是非ソフト(仕組み、利用の仕方など)への言及も

* 提案の中味が出来あがった過程(プロセス)が見える様に

* 成果物の中にモデルエリア(例えば中心市街地)施設のバリアフリー化状況のマップが出来ればメンテナンスが出来るPCデータとして有ると有りがたい

2. 活動チームメンバーリスト&任命書

(1) チームメンバーは生活福祉課との協議により次のような構成)となった。

推進チームリーダー: 鈴木幸子 (株)鈴木組バリアフリー住宅相談所所長

同メンバー : 石山房子 中途全盲者(県リハビリセンターデイサービス通所者)

” : 近野孝喜 (社)日本筋ジストロフィー協会山形県支部長

” : 高橋玲子 (社)全国脊髄損傷者連合会山形県支部事務局長

” : 高橋孝子 2級ヘルパーとして高齢者在宅訪問実践者

” : 黒沼貞志 (有)SKソリューションズ代表取締役

市コーディネーター : 市生活福祉課鞠子係長

(2) 任命書

山形市よりの本業務に対する任命書を添付 1のように受領し活動を実施しました。

3. 活動経過&打ち合わせメモ

(1) 活動経過

* 5月30日: キックオフミーティング、活動主旨の確認&全体作業スケジュール確認

* 6月10日: ワークショップ プレインストーミング&討議内容のラベル書き

* 6月7日: 福祉の街づくり啓蒙事業会議へ参加

* 6月26日: 同上

- * 6月28日:ワークショップ 目標展開検討&重み付け作業
- * 7月9日:福祉の街づくり啓蒙事業<自転車片付け隊ボランティア活動>参加
- * 7月15日:ワークショップ 目標展開検討報告、活動コンセプト、重点活動抽出、重点活動
キーパーソン選任&活動計画書・作業工程表作成
- * 7月30日:鞠子係長殿と方針会議
- * 8月16日:福祉の街づくり啓蒙事業会議へ参加
- * 8月12日:ワークショップ
- * 8月30日:ワークショップ
- * 9月3日:福祉の街づくり啓蒙事業会議へ参加
- * 9月9日:シルバーゾーン現場調査
- * 9月30日:ワークショップ
- * 10月9, 10, 11日:秋田県鷹巣町福祉塾参加(先進事例調査)
- * 10月19日:100円バス試乗調査(福祉の街づくり啓蒙事業との連携)
- * 10月22日:仙台BF施設(はぎの里&メディアテーク)調査(先進事例調査)
- * 10月30日:ワークショップ(YBC TV取材 11月9日TV放送)
- * 11月19日:ワークショップ
- * 12月19日:ワークショップ(提言書目次提案&了承)
- * 1月21日:ワークショップ(提言書素案検討)
- * 1月30日:最終ワークショップ(提言書提出)

(2)打ち合わせメモ

全12回の協働ワークショップの内容については打合覚書(添付 2)を参照願います。

4. 推進チーム活動(協働ワークショップ)の成果物

(1)キックオフミーティング

(2)車座ミーティング(ブレインストーミング) & 目標展開検討報告書

この作業は

事業の目標の確認及び明確化ができる

目標達成のための手段の見落としをなくす(階層構造としての把握)

団体、関係者と支援者のコンセンサスを得る

重点課題の定量的抽出および共通認識が可能(『重みづけ手法』による)

重点課題の担当化と実施計画書が作成される

業務のプロセスが見え且つ残る【アカウントビリティ(説明責任、透明性)の確保]

という目的&メリットを考慮して実施しました。

また、作業にあたり当チームの活動の最上位の目標を

『山形市のバリアフリー化の方向性を、推進チームの活動計画書作成とその実行を
通じて提言書として纏める』

と設定しました。

その成果物は添付 3を参照願います。

(3) 活動計画書 & 作業工程表

前項の結果を受けて作成した当チームの活動計画 & 作業工程表は添付 4を参照願います。

(4) 活動実施要領 & 活動報告

(a) 山形市のバリアフリー化施策 & 経緯(山形市生活福祉課より)

第2項「はじめに」を参照願います。

(b) シルバーゾーン調査

* 実施要領は添付 5を参照願います。

* 対象地域は添付 6を参照願います。

* 調査結果・分析・評価・提案については添付 7を参照願います。

* 調査写真は別添資料集を参照願います。

(c) 秋田県鷹巣町先進事例研究 <福祉塾> 参加: 2泊3日

* 参加報告(感想)は添付 8を参照願います。

* 福祉塾にて入手した資料は別添資料集を参照願います。

(d) 仙台市先進事例研究

* 参加報告(感想)は添付 9を参照願います。

* 入手した資料は別添資料集を参照願います。

(e) 100円循環バス試乗調査(山形市福祉の街づくり啓蒙事業連携・参加)

* 試乗調査実施要領は添付 10を参照願います。

* 調査レポート(感想)は添付 11を参照願います。

* 同行戴いた山形市広報課殿による撮影ビデオは広報課にお尋ね願います。

(f) バリアフリー施設ガイドマップ(H.12山形県作成)の山形市現状再調査、データ更新 & PCデータ化

本テーマのためにH.12山形県作成の施設ガイドマップの中の山形市を対象に、現時点における施設のバリアフリー化状況を以下の要領にて実施した。

* 現状再調査方法を <はがきによる問合せ> と設定

* 調査票の作成

* 発送対象施設のリストアップ

* 調査票 & 対象施設のPCデータを基に生活福祉課に協力をお願いして発送、回収

* 回収した調査票回答書を基にPCデータ化の実施

PCデータ化の方針は推進チームメンバーに加えデータ化実施担当者を交えて協議し次の方針を設定し実施した。

* この調査結果の活用の最終的姿は山形市のホームページ「なんたっす山形」に組み込むことを前提とする

* 今回のPCデータ化はこの前提に沿い、来年度の市の広報課などとの協議に対応できるようにデータベース化までの実施とする。

ただし、必要に応じてコピーアウトに対応する。

以上の成果物は添付 12及び別添PCデータファイルを参照願います。

(g) 市職員向けアンケート調査

前述「目標展開検討報告書」の中で提起された市職員向けアンケート調査実施のため

アンケート調査依頼書、アンケート内容を作成し生活福祉課に提出した。

* アンケート調査依頼書は添付 - 13を参照願います。

* アンケート内容については添付 14を参照願います。

これに対し、鞠子係長殿よりこのアンケートの内容に市役所の業務内容(市民へのサービス対応などの設問)も含めたいとの要望が提示された。

この要望の追加を考慮し来年度の実行計画書づくりの段階でアンケート、その分析&評価を実施することとなった。

(h)その他

山形放送(YBC) 殿放映番組のビデオテープ:別添資料を参照願います。

5. 提言(山形市バリアフリー化推進に向けて)

前述までの協働ワークショップによる検討作業、研究、調査を基に山形市の《バリアフリー街づくり》の有るべき姿の提言として以下に取り纏めた。

また、この提言は来年度の《バリアフリー街づくり》の実行計画書づくりに活かされ、引き継がれることが期待される。

(1)バリアーとは...(バリアーの定義の試み)

バリアフリー推進チームの車座ミーティングとそれに続く目標展開検討を通じて提起されたバリアの定義づけを試み、その試案として私たちを取り巻く社会には次のような【六つのバリアー】が存在すると設定しました。

- (a)交通機関、建物における<物理的なバリア>
- (b)雇用や資格などにおける<制度的なバリア>
- (c)情報公開の欠如における<情報的なバリア>
- (d)周囲の偏見、差別などにおける<意識的なバリア>
- (e)設備の設置改造のための資金不足などにおける<経済的なバリア>
- (f)国・地域の違いなどにおける<文化的なバリア>

これからの山形市の《バリアフリー街づくり》の実行計画書づくりの推進は常にこの定義を念頭に置いて実施されることを期待する。

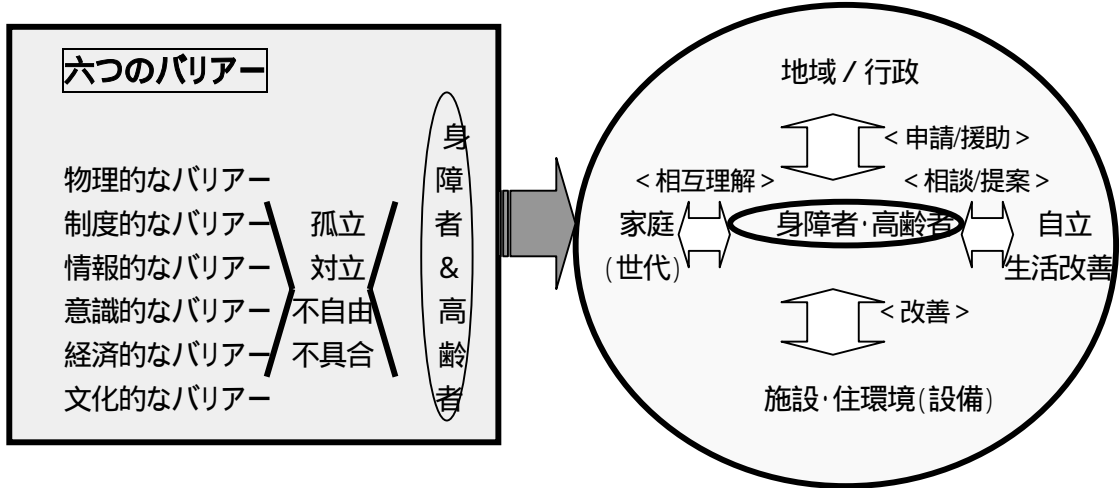
(2)バリアフリー社会のあるべき方向性

(1)項で定義づけしたようなバリアーが存在する社会の現状(問題など)と、今後どのようなバリアフリー化された社会になるべきか望ましい将来像を検討し、次のような形に表現した。

【住みなれた家住みなれた地域で年をとっても障害を持っても「自分らしい暮らし」を営むことが出来るように福祉 居住環境・医療・健康・等、生活に関連するあらゆる分野において問題点やニーズを発見し上記六つのバリアをとり除き豊かな生活環境づくりをめざす】

この内容を図に表現すると次のようになります。

望ましいバリアフリー社会

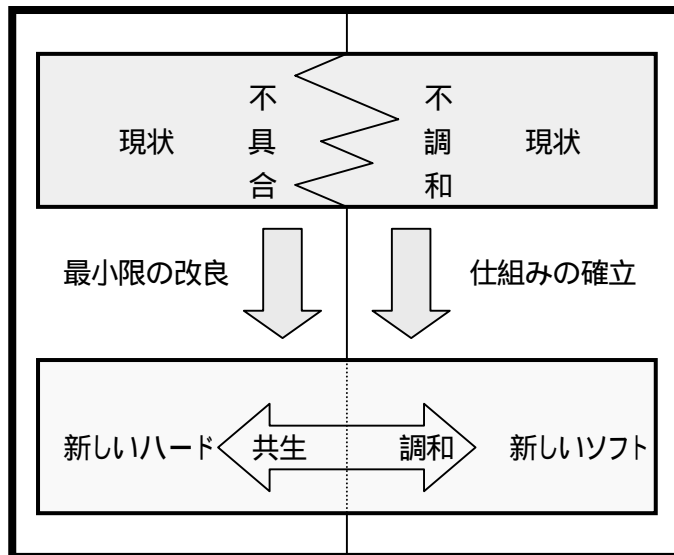


このようなバリアフリー化社会の将来像に対して山形市および市民の継続的な努力が求められているが、そのための諸施策の方向付けには次のようなコンセプトが求められている。

調和と共生 < 地域・社会・施設・家庭 >

施設・設備様式(ハード)

運用・生活様式(ソフト)



(3) 山形市のバリアフリー化の現状(市内調査結果から)

5項の推進チーム活動(協働ワークショップ)の中で実施した市内シルバーゾーンの調査結果から推察できる山形市のバリアフリー化の現状はその主な点を挙げると次のようなも

のと言える。

- (a) 高齢者を対象に設定された<シルバーゾーン>の有無やその目的についての市民への浸透が充分とはいえない。
- (b) シルバーゾーンとして設置された諸設備(配慮)が上記理由や運用のための仕組み(情報提供も含め)不足から活かされていない現場が散見される。
- (c) 諸事情も有ってかゾーン内諸施設のハード&ソフト面(運用の仕組み)のバリアフリー化に温度差が見受けられる。
- (d) シルバーゾーン設定後の継続的フォローアップ体制が充分でないように見受けられる。

調査結果、分析、評価に関する詳細は添付 7 及び別添資料(調査写真)を参照願います。

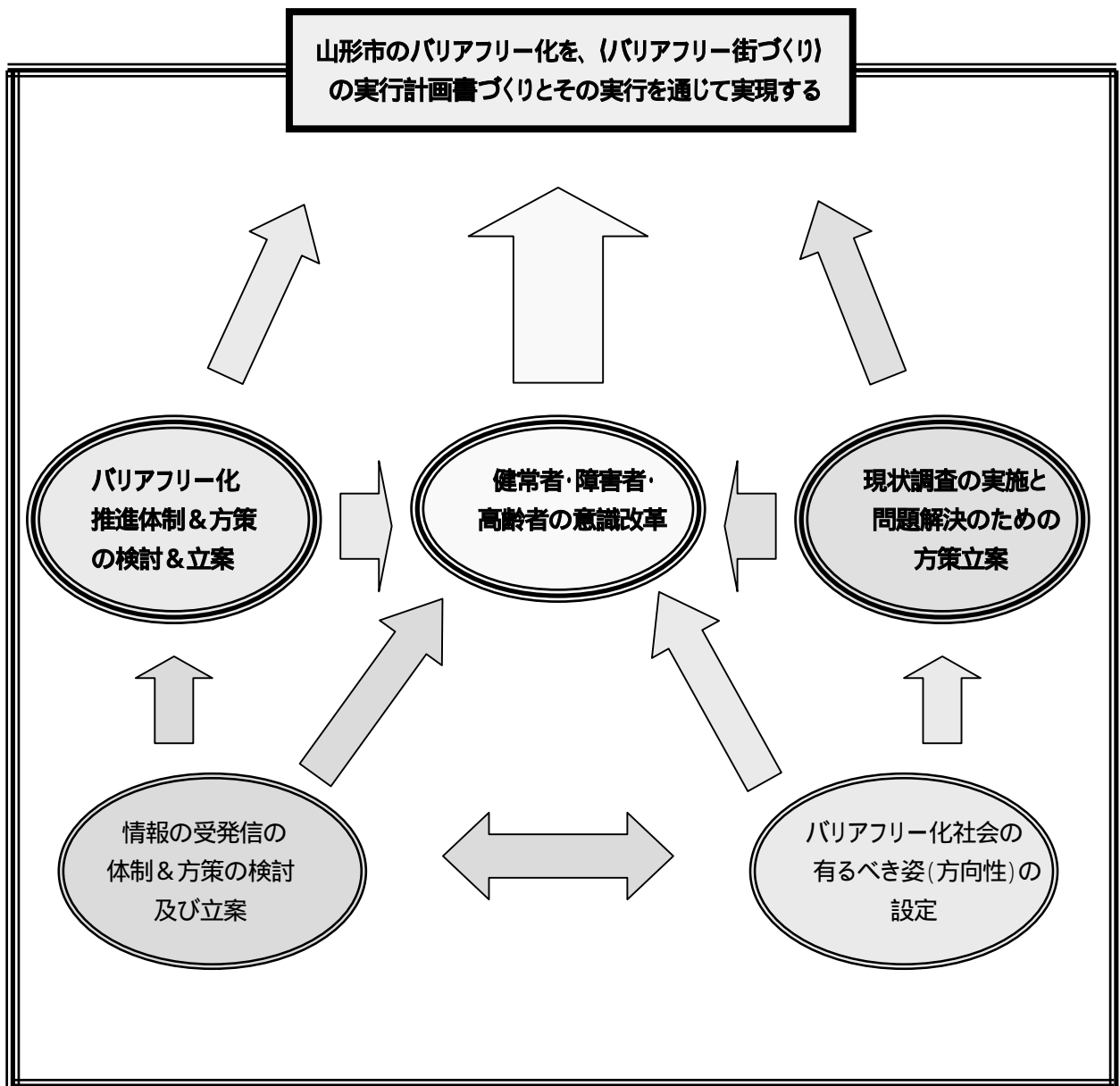
(4) バリアフリー化推進のためのビジョン&コンセプト

来年度の《バリアフリー街づくり》の実行計画書づくりに向けての指針と位置付けられるバリアフリー化推進のためのビジョン&コンセプトは、車座ミーティングとそれに続く目標展開検討報告書から次のように提案したい。

- (a) 「障害者自らの体験の発信」や関係者の努力で公開されている『各種調査データの活用を図って[バリアフリー化推進事例集]を作成し、また、「福祉関連機関・施設のマネジメントレベルの意識改革、情報公開、連携強化」を図ることによる『行政での福祉サービスの実践へ高齢者や障害者の活用』の提案を通して[職員の意識醸成・変革]に活かしてもらえるように、バリアフリー化推進のための情報受発信仕組み改善の提案を行う。
- (b) 「小さな改善で大きな効果(使い勝手) 費用対効果の視点」などの『バリアフリー化方策の基本的方針』を纏め、「今回のバリアフリー推進チームのように、街づくり計画・施策策定に高齢者・障害者の参画を積極的に導入」し『これまでの後付、形式的な意見収集から脱却し、企画・計画・設計段階からの参画』を実現し、また、福祉関係機関・団体の人事任官まで踏み込んだ刷新の提案なども盛り込んだ[バリアフリー化推進体制&方策の検討及び立案]を目指す。
- (c) 「一般的な発想(バリアフリー化 ハード上の段差、階段などをなくす)から脱却し、バリアーの定義も整理・定義付けして『バリアフリー化の視点は[生活様式]と[設備様式]の両立が基本』というバリアフリー化の基本アプローチを確立し、「ハワイの事例にもあるような『障害者も街の生活・営みに溶け込んで、さりげない当たり前のシーン=環境(風景)が日常になる環境づくり』を組み入れた[バリアフリー化社会の有るべき姿(方向性)を設定]する。
- (d) 「障害者が周囲の方々の暖かい眼差しや励ましにより、閉じこもらず積極的に外へでるきっかけをつくるために『障害者の肩を押す人・仕組み・施策も必要』であり、「車椅子などでの100円バス試乗体験会や主要バス停などでの高齢者ボランティアによるバス案内・介助」などのような『市民のバリアフリー意識のレベルアップを図る行動を検討&実行』して[健常者及び障害者・高齢者の意識を変える]必要がある。

(e)「バリアフリー化調査は人がより集まる所で実施し」且つ、バリアフリー化施設の有無に止まらず「稼働率の視点の調査を導入」して費用対効果という評価基準も考慮の上「バリアー & バリアフリー化事例を整理」した[現状調査を実施し、問題解決のための方策を立案]する。

以上のビジョン & コンセプトとバリアフリー化推進の目標との関係を図示すると次のようになります。



- (5) 当面実施すべき重点検討項目(H.15年度実行計画書策定への反映のために)
- 山形市バリアフリー施設マップ(仮称)の市ホームページへの組み入れ
 - シルバーゾーン調査結果、分析&提案のフォロー
 - 市内諸施設(中心街、観光地、市街地その他)の調査、分析&提案
 - 実践的海外現場研修(デンマーク、エグモントホイスコーレン)への参画とその成果の実行計画書への反映 1名程度の調査費の予算化の検討を提案します。
 - 上記(1)~(4)に挙げた提言のH.15年度実行計画書策定への反映
 - 山形市バリアフリー施設の現状調査を実施しその結果をホームページへの組込や諸広報手段を用いて市民への情報提供に活用する
 - 市職員向けアンケート調査の実施
 - バリアフリー推進に関する「市職員研修」の実施(障害者がコメンテーターとして参加)
 - バリアフリー推進のための市職員からなるプロジェクトチーム(兼務者)の結成し実行計画書策定作業への協力を実施する
- (6) 来年度実施計画書構築のための方法、体制、手順、要領など
- 今回のバリアフリー推進チームの検討作業は委託という方法でなく、任命書を受けての参加者の使命感、熱意によるボランティアパワーに負うところが大きかった。
- しかも、正味約8ヶ月という期間にわたる協働ワークショップや各種調査に要した時間は並大抵でないと言えます。
- 特に参加メンバーの半数は障害者(全盲者、脊髄損傷者、筋ジストロフィー患者)というハンディキャップを負いながらの参画で、残りのメンバーも高齢者&その予備軍で、身障者メンバーのサポートをしながらの活動であった。
- 市職員をはじめ関係機関の協力を得てメンバーの活動成果としてこの提言書を上程出来ましたが、H.15年度の度実行計画書策定にあたっては提言内容の実行計画書への反映の追跡検証作業が重要ですので、今回の活動メンバーの再参画に配慮願いたい。
- また、計画書策定に携わるメンバーの作業に対する適切な評価(委託事業扱いなど)も併せて設定をお願いしたい。

以上